

IV. 古いもの 対 新しいもの

□はじめに

信者の内側では、罪の性質（罪、肉、古い人）と新しい性質（霊、新しい人）とがせめぎ合っている。信者の内側の6つの要素（霊・魂・思考・心・意志・良心）のうち、特に3つの領域【思考・心・意志】において、信者がどちらの性質に従っているかが現れる。

この学びにおいて、「古いもの」とは、罪の性質にしたがったときの思考・心・意志の有り様であり、「新しいもの」とは、新しい性質にしたがったときの思考・心・意志の有り様である。

古いものと新しいものについて聖書がどのように教えているか、それを学ぶことにより、私たちは、自分の今の思考や心や意志の有り様に照らし、自分が今、罪の性質に従っているのか、それとも新しい性質に従っているのか、霊的に敏感になることができる。

今回をもって、2021 年 10 月から取り組んだ、スピリチュアル・ライフに関する一連の学びのまとめとする。これまでの学びを振り返ると、次のとおり。

- 第一部 スピリチュアル・ライフとは何か・・・聖霊による信者の霊的成長の過程
- 第二部 スピリチュアル・ライフにおける生活ルール・・・旧約聖書の中の永遠の原則と新約聖書の中のメシアの律法。聖霊の力に拠り頼んで、従っていく。
- 第三部 スピリチュアル・ライフにおける聖霊の働き・・・3つのテーマ：①新生・内住・聖霊のバプテスマ・満たし・照明の5つの働き、②キリストと結び合わされること、③神のことばとスピリチュアル・ライフ。
- 第四部 スピリチュアル・ライフにおける交わり・・・神との交わりを保つこと（Iヨハネ1:9）、神との交わりがあつて兄弟姉妹との交わりも可能となる。
- 第五部 スピリチュアル・ライフと倫理・・・スピリチュアルであるとは靈感があるとか奇跡を行うことではなく、霊的に成長しておとなになっていくこと。具体的には、正しい判断をしながら、落ち着いて倫理的な生活を目指すこと
- 第六部 スピリチュアル・ライフと弟子・・・霊的成長と聖化のゴールは、キリストに似た者とされること。スピリチュアル・ライフとは信者がキリストの弟子として歩むことでもある。
- 第七部 スピリチュアル・ライフと導き・・・神のみこころは聖書の中に明確に示されているので、あらためて導きを祈り求めるものではない。信者はそれに従うかどうかである。書かれていない事柄は信者の自由な判断に委ねられている。
- 第八部 スピリチュアル・ライフと戦い・・・3つの前線（3つの敵＝罪の性質、サタンと悪霊たち、世）。3つの敵は十字架上ですでにさばかれて無力化している。

□アウトライン

- A) 思考について
- B) 心について
- C) 意志について

A. 思考について

1. 古い思考

- (1) 傾向的に悪い（自分ファースト、人を利用したり蹴落としたりしてでも自分の欲を満たし、自分の利益になるようにする）・・・創 6：5 **その心に図ることがみな、いつも悪に傾く** → 「その心に図ること」、原文は3つのヘブル語「思い描くこと・考えの・心の」、心だけでなく思考も、である。
- (2) 放蕩に走りやすい（節操がない、飲酒遊興を好む、性欲や美食欲を満たそうとする）・・・ロマ 1：28 **無価値な思い**（節操のない考え）
- (3) 一言で言う「死」（死や病気のことばかりが気にかかる、何かを失うことを恐れる、失敗や問題を自分の責任にならないように、自分が損しないようにすることばかりが気にかかる）・・・ロマ 8：6 **肉の思いは死**
- (4) 神に敵対する・・・ロマ 8：7 **肉の思いは神に敵対する**
- (5) 思い上がりが強い（自分を過大評価する、自分を大きく見せたい）・・・
ロマ 12：3 **限度を超えて思い上がる**
- (6) 神に関して知る能力なし・・・Ⅰコリ 2：14 **神の御霊に属することを受け入れない。その人には愚かなことであり、理解することができない**
- (7) 目隠しをされているような状態、真実を見ようとしない・・・
Ⅱコリ 4：4 **思いを暗くし**
- (8) 空っぽである・・・エペソ 4：17 **むなしい心（思考）で歩む**
- (9) 暗い・・・エペソ 4：18 **知性において暗くなり**

(10) 地上のことばかり・・・ピリピ 3:19 欲望を神とし、恥ずべきものを栄光として、地上のことだけを考える

(11) 肉的 (人間の好き勝手な礼拝、自己卑下、肉体の苦行などの宗教的行為を喜ぶ)・・・コロサイ 2:18 自己卑下や天使礼拝を喜んでいる者たち・・・(中略)・・・肉の思

いによって
→ 2:21~23 「つかむな、味わうな、さわるな」といった定め・・・(中略)・・・これらの定めは、人間の好き勝手な礼拝、自己卑下、肉体の苦行のゆえに知恵のあることのように見えるが、何の価値もなく、肉を満足させるだけ

(12) 汚れている・・・

テトス 1:15 何一つきよいものはなく、その知性も良心も汚れている

2. 新しい思考

(1) 古い思考と衝突する・・・ロマ 7:14~25

(2) 神の律法に仕える・・・ロマ 7:25 心(思考)では神の律法に仕え

(3) 霊的なことを考える・・・

ロマ 8:5 【御】霊に従う者は【御】霊に属することを考える

(4) 神のみこころに沿った思考に変えられていく・・・

ロマ 12:2 心(思考)を新たにすることで、自分を変えていただきたい。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。

→ キリストに似た思考をもつようになる・・・

I コリ 2:16 「だれが主の心を知り、主に助言するのでしょうか。」しかし、私たちはキリストの心(思考)を持っています。

(5) 「神の深み」を理解することができる・・・

I コリ 2:10 それを、神は私たちに御霊によって啓示してくださいました。御霊はすべてのことを、神に深みさえも探られるからです。

(注)「神の深み」とは、「奥義のうちにある、隠された神の知恵」(I コリ 2:7)、奥義とは、新約聖書に啓示された 10 の奥義を指す。

(6) 古い思考の要塞を打ち砕くことができる・・・

Ⅱ コリ 10:3～5 私たちは肉にあって歩んでいても、肉に従って戦っていません。私たちの戦いの武器は肉のものではなく、神のために要塞を打ち倒す力があるものです。私たちは様々な議論と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち倒し、また、すべてのはかりごとを取り押さえて、キリストに服従させます。

(7) 謙遜が特徴である・・・

ピリピ 2:3～5 へりくだって、互いに人を自分よりすぐれた者と思いなさい・・・
(中略)・・・この思いをあなたがたの間でも抱きなさい、これはキリスト・イエスのうちにもあったのです。(注) 下線部は語順を直訳

(8) 真実なこと、尊ぶべきこと、正しいこと、清いこと、愛すべきこと、評判の良いことなど、神のみこころにかなひ、神の律法に従うことをいつも考える・・・

ピリピ 4:8 「心に留めなさい」＝数える、考える

(9) 神との平和を持っている (Ⅰヨハ 1:9 の罪の告白による)・・・

ピリピ 4:7 すべての理解を超えた神の平安 (神との平和) が、あなたがたの心と 思いを、キリスト・イエスにあって守ってくれます

① この前提は、7 節の冒頭に「そうすれば」とあるように、6 節である。

ピリピ 4:6 何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。

② この祈りの中で最も大切な祈りは、Ⅰヨハ 1:9 の祈りである。なぜなら、それが神との交わりを回復する道だからである。

Ⅰヨハ 1:9 もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。

(10) 地上のことではなく、天のこと、神のことを考える・・・

コロサイ 3:1～2 こういうわけで、あなたがたはキリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。上にあるものを思いなさい。地にあるものを思ってはなりません。

- (11) 腰の帯を締めている（腰の帯を締めるのは臨戦態勢をとることを意味する、目を覚ましていて備えをしっかりとっている、酔っておらずいつでも戦える → 日々の祈りの時間を習慣としてもつ、みことばを思いめぐらす、携挙の時を待ち望む）・・・

I ペテ 1:13 心（思考）を引き締め、身を慎み、イエス・キリストが現れるときに与えられる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。

（注）「引き締め」と訳されている原語は、腰の帯を締めるという意味。

B. 心について

1. 古い心

- (1) 暗い・・・ロマ 1:21 その鈍い心は暗く
- (2) 頑な・・・ロマ 2:5 頑なで悔い改めない心
- (3) 悔い改めない・・・ロマ 2:5 頑なで悔い改めない心
- (4) 思考が暗くなることにつながる頑なさ・・・エペソ 4:18 頑なな心のゆえに
- (5) 迷い出ている・・・ヘブル 3:10 心が迷っている
- (6) 不信仰である・・・ヘブル 3:12 不信仰な悪い心
- (7) ねじ曲がっている（人を欺く）・・・エレミヤ 17:9 人の心は何よりもねじ曲がっている。それは癒しがたい。だが、それを知り尽くすることができるだろうか。
- (8) 自分をも欺く・・・ヤコブ 1:26 自分は宗教心にあついと思っても、自分の舌を制御せず、自分の心を欺いているなら、そのような人の宗教はむなしいものです。
 - ① 自分の心を欺く・・・欺きの心が、自分自身をも欺く
 - ② 自分は宗教心にあついと思う・・・荘厳な宗教儀式に参加する、または取り仕切ることで、自分は宗教心があると思ひ込む
 - ③ しかし実際には、自分の舌を制御することができない。そのような人の宗教はむなしい。むなしいとは、偶像を拝むのと同じだということ。

2. 新しい心

(1) 兄弟姉妹を愛することができる・・・

ヨハネ 13:34 わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

ヨハネ 14:15～16 もしわたしを愛しているなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主を与えてくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてください。

信者がキリストの律法に従うのは、神の愛に応答し、神を愛し、そのみこころに沿いたいと願うからである。そして、キリストの律法に従う力は、信者の人間的な力ではなく、キリストの助けによる。さらに「もうひとりの助け主」である聖霊の力による。キリストの律法は、単に命じるだけでなく、それを守る力も与えてくれる完全な律法である。

(2) 牧師・伝道師として召されているかどうかを吟味し、確信する（自分の働きが実を付けているかどうか、その実は聖霊の働きによって生み出されているか）・・・

Ⅱコリ 3:2 私たち（パウロたち宣教チーム）の推薦状はあなたがた（コリントの信者たち、宣教チームの働きの結果）です。それは私たちの心に書き記されていて、すべての人に知られ、また読まれています。

(3) キリストの律法が聖霊によって書き記される・・・

Ⅱコリ 3:3 あなたがたが、私たちの奉仕の結果としてのキリストの手紙であることは、明らかです。それは、墨によってではなく、生ける神の御霊によって、石の板にではなく人の心の板に書き記されたものです。

① 石の板とは、モーセの律法を指す。

② キリストの律法が聖霊によって人の心に書き記される。これは、エレ 31:33 の預言（新しい契約）と関係する。

- この預言は、アブラハム契約に基づきイスラエル民族に与えられた約束であるが、イスラエルがキリストを拒否した結果、異邦人にその約束の祝福が及んでいる。
- イスラエルの中からは少数であるが、イスラエルの残れる者（レムナン

ト) がキリストを信じている。教会は、レムナントであるユダヤ人信者と異邦人信者とから成る。

- イスラエル民族は神から捨てられたわけではない。将来イスラエル民族が全員救われる日が来る。その日、この預言は完全に成就する。

- ③ エゼ 11 : 19 の預言では、 人の心は聖霊によって、固い石の心から柔らかい肉のような心に変えられる。

エゼ 11 : 19 わたしは彼らに一つの心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしは彼らのからだから石の心を取り除き、彼らに肉の心を与える。

- (4) 落胆することがない・・・

Ⅱ コリ 4 : 1 私たちは落胆することがありません

(→なぜか)

Ⅱ コリ 4 : 6 (語順を直訳)「闇の中から光が輝き出よ」と言われた神が、私たちの心を照らしてくださったからです (その結果、私たちの心はどうなっているか) キリストの御顔にある神の栄光を知る知識が輝いています

- (5) 清められている・・・

Ⅰ ペテ 1 : 22 あなたがたは真理に従うことによって魂を清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、きよい心で互いに熱く愛し合いなさい。

二重下線部「きよい心」、これは自分の行いで、心をきよくするのではない。

波線部、「真理に従うこと」＝神がキリストを遣わされ私たちを救ってくださることを、信じ受け入れることで、私たちは魂を清めるのである。

よって、新しい心は清められている。「きよい心」である。

C. 意志について

1. 古い意志

- (1) 神のところに來ることができない・・・ヨハネ 6:65 父が与えてくださらないかぎり、だれもわたしのもとに來ることはできない
- (2) 神のところに來ようとしなない・・・ヨハネ 3:19~20
 - ① 光が世に來ているのに（キリストが世に來ているのに）、自分の行いが悪いために、人々は光よりも闇を愛した。
 - ② 悪を行う者（罪の性質にしたがう者、不信者）はみな、光を憎み、その行いが明るみに出されることを恐れて、光の方には來ない。
- (3) 不従順である・・・サタンが古い意志をコントロールしている。サタンは、人が神のもとに來ることができないようにし、人を罪の性質の奴隷にして、神のところに來ようともさせない。古い意志の特徴を一言で言えば、神に従わない、ということである。

2. 新しい意志

- (1) 罪の性質から自由にされている・・・
ロマ 6:18 罪から解放された
（解放は何によってもたらされたのか、人の行いでも決心でもない）
ロマ 8:3 神はご自分の御子を、罪深い肉と同じ形で、罪のきよめのために遣わし、肉において罪を処罰されたのです
- (2) 神に従う・・・コロ 3:9b~10a あなたがたは古い人をその行いととともに脱ぎ捨てて、新しい人を着たのです（これは、信者の新しい意志による）
「古い人」とは罪の性質、「新しい人」とは新しい性質である。罪の性質から解放されているから、信者は新しい性質に従うことができる。新しい意志は、神に従おうとする。

□まとめ

信仰を持たない人は、古い思考、古い心、古い意志しか、持たない。

他方、信者の思考・心・意志は、古い方に傾いたり、新しい方に傾いたりする。

もし、信者が日々の生活の中で継続的・習慣的に、古い方の色を濃くするなら、霊的な戦いに負けるであろう。

しかし、そこから罪の告白の祈り（I ヨハ 1:9）をすると、神が立ち上がらせてくださる。

そして、神の力を受けて、信者が自分の思考・心・意志を新しい方に色濃くしていくなら、信者は必ず霊的な戦いに勝つ。